高瀬中だより

校長通信 No.4
2021.7.20

「真っ当（まっとう）に生きること」

校 長　　千秋　久宣

今から、２０年ほど前、学年主任をしていた頃、学年集会の際に生徒たちに次のようなテーマで話をしたことがありました。

「みんな、真っ当（まっとう）に生きろよ」

「真っ当に生きる」とは、簡単に言えば、「まじめに（誠実に）生きる」「うそをつかず、正直に生きる」ということです。どうしてそんなことを話したのか、よくよく思い出してみると、そのころ、生徒の中で自分のやってしまったあやまちについて、うそをついたり、ごまかしたり、自分だけでないと言い訳を言ったりするような雰囲気があったからです。「まじめに生きろよ」と言わず、「真っ当に生きろよ」と言ったのは、人間として真っ直ぐに生きてほしいという思いを強調したかったからだと思います。たとえ、間違ったことをしても、その場から逃げていたのでは、絶対に反省は生まれません。同じあやまちを繰り返すかもしれません。間違いやあやまちは誰にでもあります。しかし、大切なのは、その後だと思います。人間として最も大事なことは、「絶対にうそをつかない。正直であること」という考えは今も変わりません。

ところで、舞台役者で、テレビでも活躍中の梅沢富美男さんの書いた「正論、人には守るべき真っ当なルールがある」という本に最近、出会いました。自分がかつて話をしたテーマと似ていたので買って読んでみました。その中で共感できた一部を紹介します。

> 子どもにとって勉強は大切だ。しかし、勉強ばかりし過ぎて、大切なものまで失ってはいけない。かつて子どもの教育とは勉強させることだという価値観がすべてだった。しかし、昨今では勉強ができるかどうかだけではなく、どんな知恵があるのか、どんな特技があるのかが問われる時代になりつつある。
>
> もちろん、勉強なんかどうでもいいと言っているのではない。勉強はしなければならない。いざ社会にでたときに、自分が困らないように、そして人様に迷惑をかけないように最低限の知識や常識やマナーを学校で勉強して身に付ける必要があるからだ。
>
> しかし、親として子どもには、それ以上に身に付けてほしいことがある。
>
> それは善悪を見分ける力であり、他人の痛みをわがことのように感じられる心であり、美しいものは美しい、間違ったものは間違ったと思える感性である。それらは、人が幸せになるために絶対必要なものだ。それさえ備わっていれば、子どもがあまり勉強ができなかったとしても、僕は決して悲観しない。
>
> （梅沢富美男著：「正論、人には守るべき真っ当なルールがある」より）

この校長通信の内容は、本日、１学期終業式で話した内容です。本校では、これからも生徒たちに正しい生き方ができるよう指導・助言に努めてまいりたいと思います。ご家庭でもお子様のご指導よろしくお願いいたします。最後に、１学期、本校の教育活動にご理解とご協力をいただきまして誠ににありがとうございました。